お客さまへ

ご使用前に、この「取扱説明書」を必ずお読みください。お読みになった後、大切に保存し、必要なときにお役立てください。

安全のために必ず守ること

⚠警告 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

禁止	**器具の改造や指定部品以外の交換はしない。**（火災・感電・落下の原因）	厳守	**器具の清掃は電源スイッチを切ってから行う。**（感電の原因）
	器具を布や紙などで覆わない。（可燃物をかぶせて使うと火災の原因）		**煙が出たり、変な臭いがしたり、破損したなど異常を感じた場合は、すぐに電源スイッチを切る。**（感電の原因）
	器具のすき間や放熱穴に金属類を差し込まない。（火災・感電の原因）		**常夜灯（LED小丸電球）交換は電源スイッチを切ってから行う。**（感電・やけどの原因）
	引火する危険のある雰囲気で使わない。（火災の原因）		

⚠注意 誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつくもの

禁止	**お客さま自身で電気工事はしない。電気工事士の資格が必要です。**（火災・感電の原因）	厳守	**明るく安全にご使用いただくために半年に１回の保守・点検を行う。**（発火・感電・落下の原因） 不具合があったら、そのまま使用しないで工事店または電気店に修理を依頼する。
	器具の直下や近くにストーブなどの電熱器を置かない。（過熱して火災の原因）		
	光を直視しない。（長時間直視すると目を痛める原因）		
	点灯中や消灯直後は、高温のため器具およびランプに手や肌などを触れない。（やけどの原因）		

・照明器具には寿命があります。設置して8～10年経つと、外観に異常がなくても内部の劣化が進行しています。点検・交換をおすすめします。
LED光源は寿命が来ても、暗くなりますが点灯し続けます。点灯出来るからといって継続して使用が可能というわけではありません。

・周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合は寿命が短くなります。
・３年に１回は工事店等の専門家による点検をお受けください。
・点検せずに長期間使用し続けると、まれに、発煙・発火・感電などに至る恐れがあります。

※使用条件は周囲温度30℃、1日10時間点灯、年間3000時間点灯です。（JIS C 8105-1 解説による。）

器具の清掃

⚠警告 電源スイッチを切ってから行う。（感電の原因）

⚠注意 点灯中及び消灯直後の器具には触らない。（高温のためやけどの原因）

＜器具のお手入れについて＞　器具の汚れがひどいときは、柔らかい布を使用量の目安まで水でうすめた台所用中性洗剤につけてよくしぼってから拭きとり、さらに洗剤成分が残らないようによくしぼった水拭き用の柔らかい布で仕上げてください。台所用中性洗剤は、原液のまま使用しないとともに、シンナー・ベンジン・みがき粉やたわし・熱湯・アルカリ性洗剤・薬品などは使用しないでください。

＜拡散カバーのお手入れについて＞　拡散カバーはキズつきやすいのでメガネ拭き等柔らかい布で拭いてください。

お知らせ

・LEDにはバラツキがあるため、器具内の個々のLEDや同形状の器具でも発光色、明るさが異なる場合があります。予めご了承ください。
・点灯、消灯時に拡散カバーの収縮・膨張により、きしみ音が発生する場合がありますが、異常ではありません。
・LED光源（常夜灯を除く）の交換はできません。交換の際は器具ごと交換してください。
・壁面や床面等への照射距離が近い時や照射面によっては光ムラが気になる場合があります。ご了承ください。
・電源スイッチに片切スイッチを使用する場合、片切スイッチを電源の高圧側に設置してください。

保証について

・無償修理
照明器具の商品納入日より１年間、また照明器具に内蔵されているLED光源・電源ユニットは3年間、LED小丸電球は5年間です。

・無償提供
LED光源・電源ユニットの故障による不点灯不具合につきましては、代替商品またはLED光源・電源ユニットを5年間無償提供させていただきます。

※保証期間と保証内容についての詳細はカタログを参照ください。

異常時の処置

⚠警告 煙が出たり、変な臭いがしたり、破損したなど異常を感じた場合はすぐに電源を切る。（火災・感電の原因）
煙が出なくなるのを確認して、工事店または下記連絡先にご相談ください。

取扱い・修理のご相談は、まず
お買上げの販売店・施工者・設備業者へ

お買上げの販売店等にご依頼できない場合は、ご相談窓口へお問い合わせください。

三菱電機株式会社
三菱電機照明株式会社
〒247-0056　神奈川県鎌倉市大船 2-14-40

ご相談窓口 照明技術相談センター
フリーダイヤル 0120-348-027（無料）
受付時間 9時～17時（土・日・祝日は除く）
FAX (0467) 46−8861

E771Z336G03　E771Z336H54

保管用

このたびは三菱照明器具をお買い上げいただきましてありがとうございます。

MITSUBISHI ELECTRIC

三菱 LED 照明器具

LEDホスピタルブラケット

形名 EL-LV5001WM 1HTZ　EL-LV5001WWM 1HTZ（上下個別調光・常夜灯付き）
EL-LV5001LM 1HTZ

取扱説明書

・この製品は日本国内用ですので日本国外では使用できず、また、アフターサービスもできません。
・電源周波数 50Hz、60Hz 共用ですから、日本全国どこでも使用できます。

施工者さまへ

・施工の前に、この「取扱説明書」を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
・取付工事の後、必ずお客さまにお渡しください。

安全のために必ず守ること

・誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、⚠警告 ⚠注意 の表示で区分して説明しています。
表示の意味は表中で説明しています。

図記号の意味は次のとおりです。

絶対に行わないでください。	必ず指示に従い行ってください。

⚠警告 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

禁止	**引火する危険のある雰囲気で使用しない。**（ガソリン・可燃性スプレー・シンナー・ラッカー・可燃性粉じんのある所で使わない。）（火災の原因）	禁止	**配線工事の際、電線の絶縁体にキズをつけない。**（絶縁破壊により感電・火災の原因）
	器具取付けの際、電線を挟まない。（絶縁不良により感電・火災の原因）		**表示された電源電圧以外では使わない。**（火災・感電の原因）
	高温（３５℃を超える）、高湿度（８５％ＲＨを超える）、粉じん、油煙の多い場所、強い振動・衝撃のある場所で使わない。（落下・感電・火災の原因）	厳守	**施工は電気工事士の有資格者が電気設備の技術基準・内線規程、取扱説明書に従い行う。**（施工不備により、火災・落下・感電の原因）
	狭い箱のような中で使わない。また、器具を隠して使う場合は、放熱を妨げない。（器具が過熱して火災の原因）		**電源線接続の際は、指定太さの電源線を指定長さに被覆を剥がし１本ずつ電源線差込穴の奥まで差込む。**（差込み不十分は接触不良により感電・火災の原因）
	壁付け専用器具です。天井には取付けないでください。（落下の原因）		**電気工事の際は、電源を切る。**（感電の原因）
	器具を覆わない、拡散カバーに何も貼り付けない。（過熱による火災の原因）		**調光端子台に電源線を接続しない。**（火災・感電の原因）
	拡散カバーに塗料などを塗らない。（過熱による火災の原因）		

⚠注意 誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつくもの

禁止	**さびの出やすい場所、腐食性ガスの出る場所で使わない。**（劣化による落下の原因）	禁止	**器具を乾燥不十分なクロス貼り・コンクリート面には取付けない。**（絶縁不良やさびにより感電・落下の原因）
	雨水のかかる場所で使わない。（水気・湿気が入り感電の原因）		**風が吹く場所で使わない。**（落下の原因）
	ドアの開閉で当たる部分に照明器具を取付けない。（破損して落下の原因）		**一般屋内用器具です。屋外、水気・湿気のある場所（例：トイレ・厨房・脱衣所など）、及び軒下、屋外通路、アーケードなどの雨線内では使用しない。**（火災・感電の原因）
	腐食性ガスの発生する場所で使わない。（劣化による落下の原因）		**直射日光の当たる場所で使用しない。**（変色・変形・火災の原因）

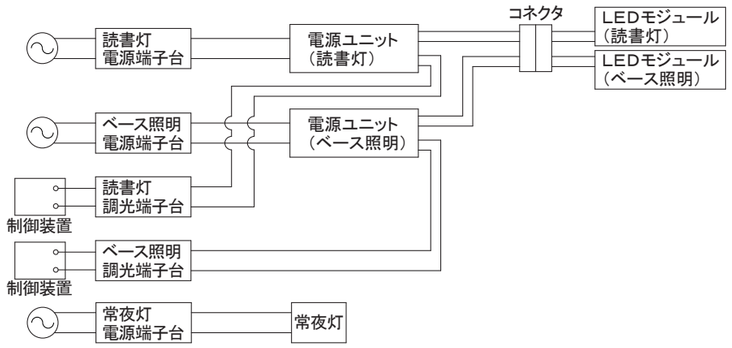
お願い

・周囲温度は5～35℃の範囲でご使用ください。
・温泉地など、硫黄成分を含む腐食性ガスが発生する場所では使用しないでください。また、一般屋内でも器具周囲に硫黄成分が存在する場所では使用しないでください。光学特性等に不具合が発生する原因となります。
・油煙のある場所では使わないでください。光学特性が低下する原因となります。
・バーコードリーダーを器具付近で使用した場合、読み取り感度が鈍くなる場合があります。事前確認することをおすすめします。
・防犯カメラ等を使用する場合は、フリッカー対策仕様のカメラを使用してください。
・連続調光でご使用の際は、当社制御装置と組合せてご使用ください。

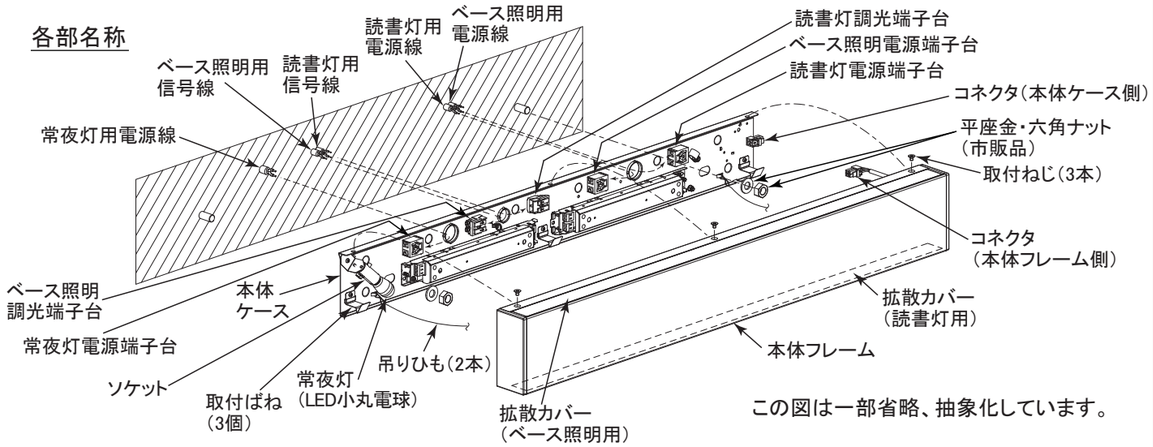
各部のなまえと取付けかた

⚠警 告 器具の取付けは取扱説明書に従い行う
（不確実な取付けは、器具落下・感電・火災の原因）

接続図

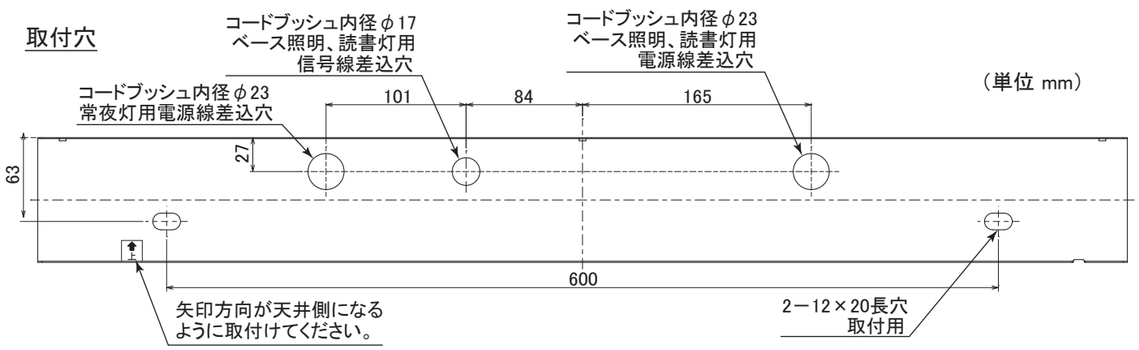


各部名称



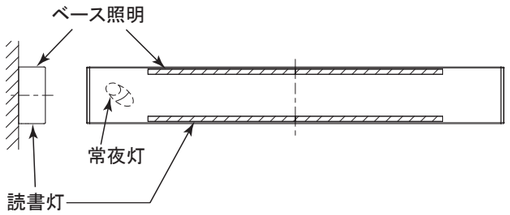
この図は一部省略、抽象化しています。

取付穴



・この器具は、ベース照明、読書灯、常夜灯の3回路となります。
ベース照明の場合は器具上側のLEDが点灯します。
読書灯の場合は器具下側のLEDが点灯します。
常夜灯の場合は器具左下側付近が点灯します。

※お願い
常夜灯は他の点灯モード（ベース照明、読書灯）と同時に点灯しないでください。（常夜灯の寿命が短くなる原因）



点灯モードの設定・切替（定格モード⇔節電モード）

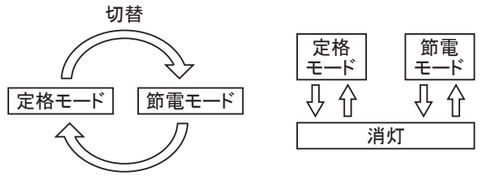
本器具は、壁スイッチ操作により器具の点灯モード（光束値）を切替えることができます。
・定格モード（定格光束）
・節電モード（定格光束の約70%の光束値）
調光端子台を使用し連続調光する場合は、壁スイッチ操作による点灯モードの切替はできません。制御装置にて調光を行ってください。

1 器具取付後の点灯モード設定

出荷時は定格モードに設定しています。

●点灯モード設定を切替える場合は、消灯状態で壁スイッチのON－OFF操作を3回繰り返してください。
※壁スイッチの操作は、ON（1～2秒）－OFF（1～2秒）の間で行ってください。
※ON－OFF操作を繰り返した後は、最後のOFFから2秒以内に電源をON（4回目）して、5秒以上点灯させてください。

●点灯モード切替完了のお知らせ（明るさの変化によりお知らせします。）
・定格モード：明るさが1回変化します。
・節電モード：明るさが2回変化します。



2 メモリー機能

●消灯時の点灯モードを記憶しています。
再点灯時は、消灯前の点灯モードで点灯します。

3 リセット操作

●複数台接続時に器具間の点灯モードが揃わない場合は、一度リセットを実施してください。

●リセットを実施する場合は、消灯状態で壁スイッチのON－OFF操作を4回繰り返してください。
いずれの点灯モードからも定格モードへリセットされます。
※壁スイッチの操作は、ON（1～2秒）－OFF（1～2秒）の間で行ってください。
※ON－OFF操作を繰り返した後は、最後のOFFから2秒以内に電源をON（5回目）して、5秒以上点灯させてください。
※調光信号の制御にて切替える場合は、調光信号のON－OFF操作にて行ってください。

●リセット操作の完了は、明るさの変化によりお知らせします。
リセット操作後に明るさが1回変化すればリセット完了となり定格モードでの点灯状態を維持します。

4 点灯モードの確認

●点灯モードの確認をする場合は、消灯状態で壁スイッチのON－OFF操作を2回繰り返してください。
※壁スイッチの操作は、ON（1～2秒）－OFF（1～2秒）の間で行ってください。
※ON－OFF操作を繰り返した後は、最後のOFFから2秒以内に電源をON（3回目）して、5秒以上点灯させてください。
・定格モード：明るさが1回変化します。
・節電モード：明るさが2回変化します。

＜点灯モード設定時のご注意＞

●常夜灯は調光できません。

仕 様

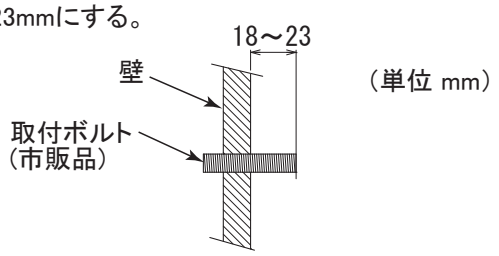
形名	定格電圧	周波数	入力電流	消費電力	光源
EL-LV5001WM EL-LV5001WWM EL-LV5001LM	AC100V	50/60Hz	0.396A	38.8W	ベース照明+読書灯
			0.277A	27.3W	ベース照明
			0.119A	11.5W	読書灯
			0.005A	0.5W	常夜灯

1 取付前の確認

（1）器具質量（2.6Kg）に十分耐えるよう、ボルト取付部の強度を確保する。
取付ボルト（市販品）は、W3/8又はM10を使用する。

警告 器具の取付けは質量に耐える所に取付ける。（落下の原因）

（2）取付ボルト（市販品）の長さは、壁面より18～23mmにする。



2 本体ケースを取付ける

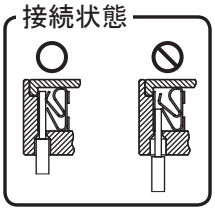
（1）本体フレーム上部の取付ねじ（3本）を外して、本体ケースから本体フレームを外す。
（2）本体ケースの電源線用穴に電源線を引き込む。
（3）本体ケースの調光線用穴に調光線を引き込む。
（4）市販品の平座金、六角ナットを用いて、本体ケースを確実に固定する。
推奨締付トルクは1.4～1.6N・m。
※締付トルクが過ぎると、器具変形、壁面とのすき間の原因。

警告 本体ケースを確実に取付ける。（取付けが不完全な場合落下の原因）

注意 器具の取付け・取外し・清掃時は手袋などの保護具を使用する。（けがの原因）

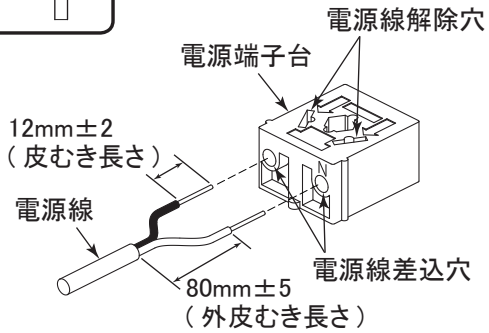
3 電源線を電源端子台に接続する

（1）電源線を電源端子台の電源線差込穴に確実に差し込む。
・適合電線：Φ1．6mm VVF単線　Φ2．0mm VVF単線
・電源線を取り外すときは、幅6mmのマイナスドライバーを電源線解除穴にまっすぐ差し込む。



警告

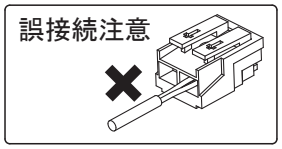
・電源線を電源端子台の電源線差込穴に確実に差し込む。
（接続が不完全な場合は、接続不良による発熱により火災の原因）
・電源線は、適合太さのものを指定長さに被覆をむき、一本ずつ電源線差込穴の奥まで差し込む。
（差し込み不十分は接触不良により火災・感電の原因）

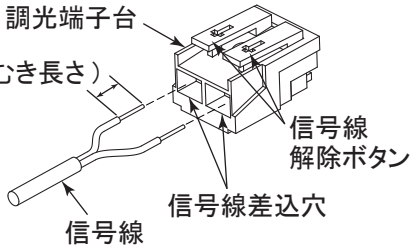


4 信号線を調光端子台に接続する

・連続調光でご使用の際は、当社制御装置と組合せてご使用ください。
（1）信号線を調光端子台の信号線差込穴に確実に差し込む。
・適合電線：Φ0．9mm、Φ1．2mm FCPEV-1P単線
・信号線を取り外すときは、信号線解除ボタンを押す。

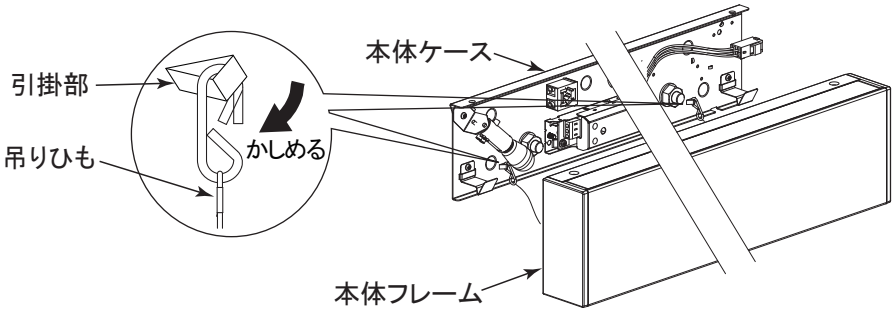
警告 調光端子台に電源線を接続しない。（加熱して火災の原因）





5 本体フレームを取付ける

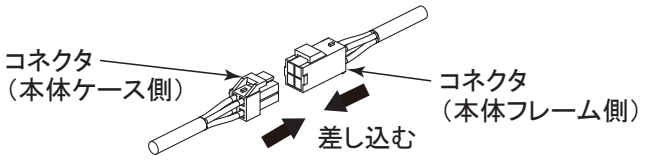
（1）吊りひも2本をそれぞれ本体ケースの引掛部に引っ掛け、ペンチ等で確実にかしめる。



警告

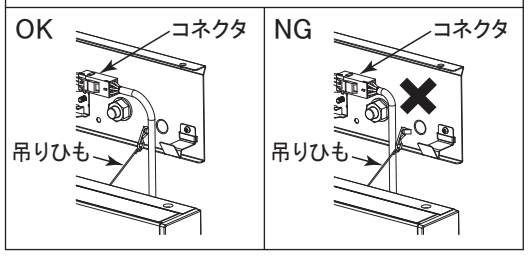
吊りひも2本は引掛部にペンチ等で確実にかしめる。
（かしめ不足は施工時、常夜灯交換時に器具落下の原因）

（2）本体ケース側と本体フレーム側のコネクタを接続する。

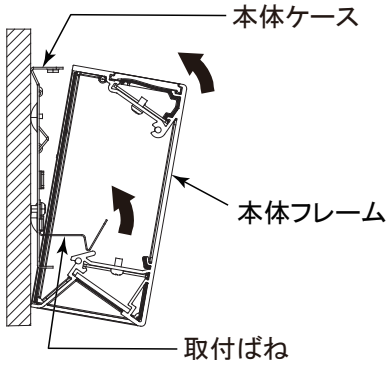


警告 通電した状態でコネクタの接続をしない。（感電の原因）

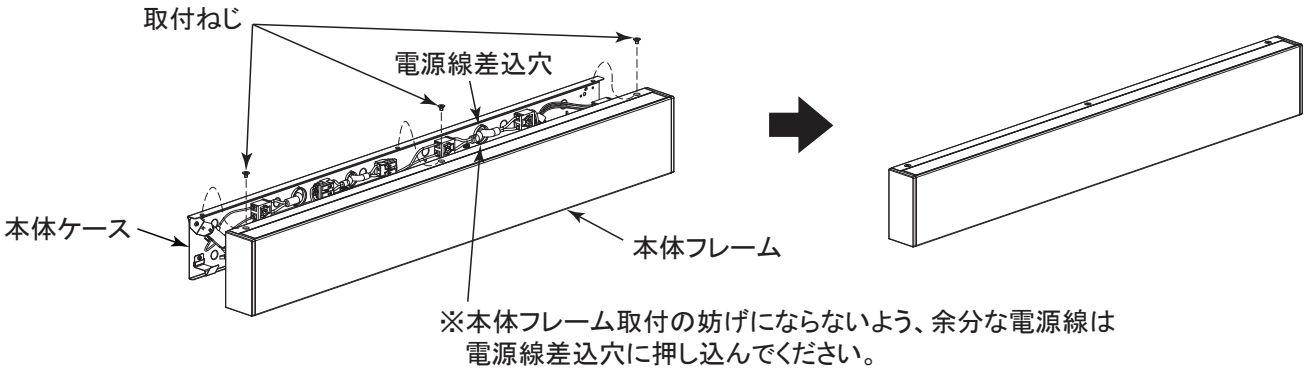
※注意
コネクタの接続は吊りひもの外側で絡まないように行うこと。



（3）本体フレームを本体ケース側の取付ばね3ヶ所に下から押し当てて、本体フレームを押し上げながら、本体フレーム上部を壁側に押し付ける。



（4）本体フレーム上部から取付ねじ（3本）で確実に取付ける。取付ねじ（3本）の推奨締付トルクは0.8～1.0N・m。



（5）本体フレームを手前に引っ張って外れないことを確認する。

＜常夜灯の交換について＞

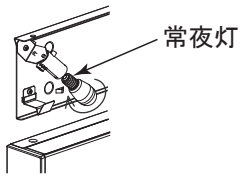
下記の指定された部品を使用する。

・パナソニック製LED小丸電球を使用する。指定以外のLED小丸電球を使用しないでください。

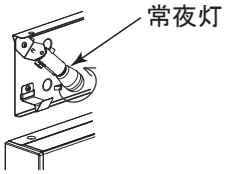
交換部品	常夜灯	LED小丸電球	LDT1L-H-E12

（1）本体フレーム上部の取付ねじ（3本）を外して、本体フレームを取外す。

（2）常夜灯を左回転させて、常夜灯を取外す。



（3）新しい常夜灯をソケットに右回転にてねじ込んで確実に固定する。



（4）本体フレームの取付け方は、5（3）～（5）と同様。